

平成20年9月24日(水)
岡谷市基本構想審議会

岡谷市基本構想審議会

会 議 録

(出席者)

委員・・・13人

井口 光世委員、小口 直美委員、河西 万里子委員、笠原 新太郎委員、
谷口 久雄委員、中村 俣明委員、成澤 富美子委員、林 勝利委員、林 健一委員、
羽山 幸良委員、三澤 勝委員、宮坂 秀子委員、山岡 晴男委員
(欠席 小口 博正委員、小口 光子委員)

事務局・・・8人

総務部長 中田富雄、総務部企画担当参事 矢島政樹、
企画課まちづくり政策主幹 小坂英之、同 小口智行、同 岡本典幸、主査 原 尚彦
主任 伊藤 清和
同課行政改革推進主幹兼まちづくり政策主幹 百瀬 邦彦

第 2 回岡谷市基本構想審議会

平成 2 0 年 9 月 2 4 日(水)

午後 1 時 3 0 分 ~ 4 時

市役所 6 0 5 会議室

次 第

岡谷市民憲章唱和

1 . 開 会

2 . あいさつ

3 . 議 事

(1) 部会審議について

座長	審議の始め方についてお諮りをしたいと思う。前回第 1 回の会議の中で、進め方についていくつか意見をいただいた。それを踏まえて、過日正副会長で検討した結果、委員 1 5 名全員が一同に会してということになると、なかなか発言しづらい、あるいは発言する機会も少なくなるということから、前回のときに提案をいただいた部会をうまく併用する形で運用していったらどうかということに、我々の中で検討をした。すでにお手元に案内がされていると思うが、今日から 2 つの部会でそれぞれに検討いただき、それを最終持ち寄るといような形をとらせていただければと考えている。その進め方について、まず皆さん方のご意見をお聞きしたいと思う。
B 委員	部会の方は、その都度メンバーが変わるということでよろしいか。
座長	お手元に資料がっておりますが、部会を作る場合には自分の希望する部会をあらかじめ申請していただくということで、編成は都度変わってくるということになるかと思う。人数比率があまりにも悪い場合はうまく調整をしながらやっていくというのがいいかと思う。
J 委員	確認をさせていただきたいが、それぞれの部会で審議した後に、全体の審議というものがあるが、例えば A のテーマで A の部会に入り、B のテーマは別で出られないということになるが、その場合には全体審議で意見を述べさせていただくという形になるのか。
座長	そういう形になる。
J 委員	あるいは事前に、例えば A というテーマの部会に決まっていれば、B について意見を述べる機会や時間がそれほど多くはないので、事前にメールや文章なりで事前に出させていただくという形でも問題はないのか。

小坂主幹	<p>そういった形でよろしいかと思う。本日欠席の委員さんがいらっっしゃいますが、欠席されたときには事前にその分野のご意見やご質問をいただいておりますので、この後部会ときには今日欠席の～さんからこんなご意見をいただきました、こんなご質問をいただいていますと、そんな形で進めていければと思っている。今のお話と同じような形で、違う部会の分については事前にいただければ、そこでご紹介させていただきたい。</p>
座長	<p>よろしいか。もし実際に進めている中で、微修正する必要があるればその都度意見を頂戴する。この場ではいったんそういった形でスタートを切らせていただくということで了解をいただき、始めさせていただきます。</p>
小坂主幹	<p>本日は2つの部会に同じ内容で審議をしていただく。欠席の方もいらっしゃるが、名簿の順に2つに分けさせていただければと思う。名簿の順にE委員さんから座長さんまでの6名がAの部会。F委員さんからD委員さんまでの7名がBの部会ということをお願いしたい。部会の座長につきましては、初めてですので、副会長さんの方をお願いし、A部会は笠原さん、B部会は宮坂さんをお願いしたい。次回になるが、お手元に意向表を置かせていただいた。先ほど林委員さんからもお話があったが、今回は基本目標1と2を予定している。皆様方の希望でどちらかに丸をしていただきそれぞれの部会へ移動するときにいただきたい。その上で、本日の最後に皆様がどんな意向かをご覧いただきたいと思う。場合によっては極端に人数が傾いてしまった場合は調整をしていただくなり、1つのテーマを2つの部会に分けてといったことも考えられるかもしれないが、皆さんに相談させていただきたい。そんな形でお願いをしたい。</p>
座長	<p>今日の進め方についてよろしいか。 さっそく審議に入らせていただくが、部長さんのお話を伺い、それから審議ということになっているが、その前に部会に分かれてしまうので、分かれる前に一同に会しているところで、お手元に届いている第4次総合計画に、それぞれに目を通させていただいているかと思うので、そんな中で感想など最初に一言ずつお聞きし、それから具体的な審議に入らせていただきたいと思いますと思う。</p>
F委員	<p>まったく違う話をして恐縮だが、太鼓祭りの踊り部会で、みなこいわさか部会というのがある。名古屋にあるまんなか祭りというのが全国大会みたいなものである。そこに応援がてら行って来た。そこで決勝の舞台に岡谷のチームが出ると後ろで、「岡谷って知ってるな」とか「太鼓祭り有名だよな」というような話を、僕等より少し上の夫婦が話をしていた。あるいは食事をしているところに、上り旗を持っていたら、年配の方がきて、自分は岡工の出身だと話しかけられとても嬉しかったし、岡谷のことを誇りに思ってくれている人もいて、そんな岡谷のこれから10年をつくっていく大事な計画なので、微力ながらも頑張っ参加していきたいと思う。</p>

K 委員	<p>女性の立場から申しますと、やはり子育てに力を入れて欲しいということを強く感じた。岡谷市の方で、子育てを全面的に医療の予防注射を無料にするとか、現在H i bが他の市町村で認可されていないので、そういったことを前向きに取り入れ、無料で予防接種ができるなど、岡谷へ行けば、子育てもできる、産業も豊かなものがある、そういうようなものを目指して、進んでいけたらいいと思う。</p>
G 委員	<p>ボリュームが多くて目を通そうと思ったが間に合わなかった。市の全般のことについて書いてあるということだが、限られた財政の中でやるにはやはり優先順位をつける必要があるのかなと思った。</p>
A 委員	<p>あまりにも膨大な資料であまり頭に入っていませんが、計画の性格とか、政策の構成とか、更に言えば私も衛生自治会という仕事を毎日やっているとどうしても環境面に頭がいつてしまうということになるが、この機会を通して、全体的に勉強していきたいと思う。</p>
I 委員	<p>私も岡谷には何十年と住んでいるが、資料を見て知らないことも多いなと感じた。また前回送られてきたアンケートを見ると、それぞれの立場で、色々な意見があると感じた。今回資料を見ていて、思ったのは目標の中に“適正な”とか“適切な”という言葉が多く使われている。それがどこを指すのか、それがこの審議会で決めていかななくてはならないことと思うが、そういったところはこれから勉強していかななくてはならないと思っている。</p>
C 委員	<p>私は市の仕事というのは、こんなに幅広くやらなければいけないのかというか、幅広いと思った。極端に言えば、産業のまちといえど工業の方しか私としては浮かばなかった。農業は分かるが、漁業まで計画の中に入っている。岡谷に漁業なんてやっている人がいるのかと思ってしまう。市となるとそこまでやらなければいけないのかと感じた。これは大変だという気がしている。</p>
D 委員	<p>この間一度休んでいるため、中身を読ませていただいた。市長さんが抱えている工業振興はできるだけ突っ込んで方向性をうまくまとめたらいいいのではないかとということと、環境など色々あるが、税収が上がる方法の検討をしていただければ、岡谷が一番大きく動く方向だし、色々な計画を受けることができるということで、税収を上げる方法を検討していただければと思う。</p>
J 委員	<p>4年前くらいに広域連合の同様の策定計画の委員になったことがある。それと比較しながら見させていただくと、以前につくられたものに比べて、だいぶ分かりやすい表現を取り入れているということで、市民に近づいた総合計画になるかと感じるが、細かいところを見せていただくと、数値目標はこの数値で意味があるのかと非常に気になる場所があり、専門家のつくられた計画であるので素人</p>

	<p>がどこまで言って良いのかという気にもなるが市民の立場というところでよりよい計画になればなと感じる。</p>
B 委員	<p>一通り読ませていただき、よくここまで細かくうまい状態で作られているので、これをつくった人たちは非常に苦労されたのではないかと思う。立派なものだと感じた。</p> <p>しかし、非常に文章が多く理解し難いところがいくつもあった。同じ文章が何度も出てくるというようなことがあるので、もうちょっとすっきりした方が良かったと感じた。</p> <p>非常に立派だと感じた。これなら10年の計画でなく、100年でもいいようなくらい落ちのないものだが、逆にピントがどこかなというところもあった。</p>
E 委員	<p>P T Aの代表ということで、資料をコピーさせていただいた。すべてコピーというわけにはいかなかったので、特に子育て支援、生涯学習、学校教育のところをコピーさせていただき、母親の方に渡して皆さんの意見をいただくようにお話させていただいた。計画を見させていただき、個人的に心配になるのは少子化と高齢化、親世代の看護、自分たちの老後を考えると、人口が大変減ってきているということで、とても不安を覚えた。でも中にもあったが、市民総参加のまちづくりというものにどうやって関わっていくのかなど1人ではできないことでも、大勢の知恵を出し合えば、良いものができるのではないかと思う。</p>
H 委員	<p>このような大きな会議にまったく出たことがないので、来るだけでどうしていいかわからないくらいかなり緊張している。いつでも一般市民の細かいことでも、少しでも何かお役に立てることがあればと思う。今まであまり関心がなく、細かいところを見ることがないので、少しずつ勉強していきたいと思う。1つ質問ですが、次回からの部会に分かれるということで、アンケートの紙を書くようにということだったが、やはり資料が多いので、どちらに出るかということが事前に分かるようになれば勉強してくることもできるが、次回にならないとわからないか。</p>
座長	<p>一応今日の段階で、次回はというのが、ある程度分かるような状態で散会するという形でいいですね。</p>
小坂主幹	<p>はい。</p>
L 委員	<p>委員の皆さんから出たご意見、感想とほぼ同じだが、今後10年間を見通した政策を見据えて計画をするものですから、具体的に掲げる事が難しいというようなこともあると思う。しかし、委員の皆さんからも出ていたように各項目の中で、優先順位をつけて具体的に何をするのかというものがある程度見えたほうが、取り組みやすいし、市民としても協力していきやすいということがあるのではない</p>

座長	<p>いか。記載については、適切とは何かということもある。また官民連携、民間の連携ということも非常にたくさん出てきている。これも最初の話に戻るがなるべく具体的に計画を作成するということを考慮いただければ市民としてもわかりやすいところがあるのではないかな。</p> <p>今回の計画は市の皆さん方が独自でつくったという話があった。そういう意味ではこれだけ膨大で幅広い資料をまとめるというのは大変なことだったと思う。しかし、その一方で、世の中の動きはめまぐるしく変わっている。この検討が始まった頃とは、色々な状況がずいぶんと変わっているのではないかなと思う。更に先々を見れば、更に激しく変化する背景があるので、その中でこれをいかに有効に生かしていくかということについては、色々運用段階で一工夫も二工夫もしようがあるのではないかなと思う。</p> <p>唐突でそれぞれの感想を聞かせていただき、ありがとうございました。</p> <p>それでは元の手順に戻ります。本日は序論と基本構想の第1章というところが、対象になっている。総務部長さんの方から説明をお願いします。</p>
----	---

(2) 全体説明 「序論」・「基本構想の第1章」

総務部長

具体的に皆さんからのご意見をお聞きし、かなり痛いところを突かれた思いをしている。最後に会長さんの方からの、すでに時が動いているという部分で、私たちも本当に時代の変化というものが、あまりにも激しく、またこれからの先が本当に今の制度のままいけるのかどうか。例えば、後期高齢者医療は、ついこの間まで、とんでもないことを言い、なんとしてもやると言っていたことが、今の政治家レベルで言うで見直していくということになっている。そうなれば、私たちはどんな思いをしてつくっているのかと大変な思いをしている。

それでは、今回の考え方について、まず序論と基本構想について説明させていただきますので、よろしく願いをいたします。

諮問案資料の1ページから16ページまでの概要、基本的な考え方について説明をさせていただきます。まず、序論の3ページをご覧くださいと思います。

計画の構成と期間でございますが、総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つで構成し、全体の計画期間を平成30年度までの10年間としております。

この10年の考え方については、かなり幅があるということと、今までの中で、フォーラムなどで、この10年というのが適正かどうかということについては、かなりの議論をいただいておりますが、国からの一定の指導のような部分も含め、変化の激しい時代ではありますが、先の読みづらい時代だからこそ、将来に夢を描く計画が必要であり、長期的な目標をもって進むべき方向性を示すことが重要ではないかと考えております。

おめくり頂きますと、4ページから7ページは、「時代の潮流からみたまちづくりの課題」として7つの項目にわたり分析をいたしました。岡谷市がめざすべき方向を誤らないためにも、的確に時代の流れを把握することが重要となります。

続いて9ページからが基本構想となりますが、まず基本理念として岡谷市民憲章を掲げ、そのもとに、めざすべき将来都市像を「みんなが元気に輝く たくましいまち岡谷」といたしました。

第3次総合計画では、「人と自然が共生する健康文化産業都市」として具体的な行政分野を列挙して、都市基盤整備や公共施設整備など目に見える形でまちづくりを進めてまいりました。

しかしながら、今後の10年間は、厳しい財政状況もあり、これまでのように、あれもこれも行うまちづくりは難しい状況といえます。これまで整備してきた施設を有効に活用する施策や事業の展開が求められてまいります。

「みんなが元気に輝く」とは、岡谷に住み働く市民の皆様をはじめ、岡谷らしい独自の文化や教育、福祉など、ふるさと岡谷のあらゆるものが元気に輝くイメージであります。

この「みんなが元気に輝く」まちづくりを推進するためには、本市の基幹産業であります製造業を中心とした産業振興を図ることにより、まちの活力とにぎわいを創出し、これによって安定した財政基盤を確立することが重要となります。そうした産業の力強さに支えられ

た足腰の強いまちであるとともに、平成18年7月豪雨災害の教訓を踏まえた安全・安心のイメージを加えたものが「たくましいまち」であります。

また、基本構想では、将来人口の想定として、平成30年度の目標人口を5万3千人とし、計画がスタートする平成21年4月に見込まれる人口規模を維持することといたしました。

第3次総合計画では、大学誘致なども想定しながら平成20年度の目標人口を6万人としておりましたが、残念ながら人口の減少傾向が続いております。

こうしたなかで、狭い土地事情などを考慮しながらも、都市の活力を維持するためには、やはり一定の人口規模が必要ではないかと考えております。

統計的に推計される平成30年度の人口は約5万人であります。目標の5万3千人とするためには、産業振興施策や子育て支援施策の充実に努め、岡谷に住む皆様の市民生活の向上を図ることが優先の課題と考えています。そうした取り組みにより、岡谷市の人口減少に歯止めをかけ、人口の維持・増加につなげてまいります。

次に、新しい総合計画では、「土地利用の構想」を合わせて示しています。

地域別に、市の区域を北部、中部、南部に分け、それぞれ特色を生かした土地の活用を図ってまいります。

また、目的別に「森林保全ゾーン」、「森林ふれあいゾーン」、「中心市街地ゾーン」、「親水ふれあいゾーン」の4つの整備ゾーンを設け、乱開発を防止し、適切な土地利用を誘導いたします。

この「土地利用の構想」におきましても、産業振興に配慮し、「企業立地を推進するため、周辺環境に配慮しながら土地利用の転換に努める」こととしています。

次に16ページをご覧くださいまして、「まちづくりの基本目標」について説明をいたします。市民ニーズが多様化・高度化するなかにあって、総合計画は、文字どおり行政の幅広い分野にわたる総合的な計画であります。新しい総合計画では、市民の皆さんのご意見をお聞きし、これを集約するような形で、岡谷市独自の特色ある基本目標を5つにまとめ、わかりやすい言葉で表現いたしました。

個々の基本目標の内容については、次回以降に審議いただきますので、今回は、基本目標の設定の仕方や考え方についてご意見をいただきたいと思っております。

まず、「ものづくりが元気でなくては」との意見をたくさんいただき、基本目標の1番目を「魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち」として、産業振興分野を最優先の課題と位置づけました。

これに続きまして、「地域のつながりが重要」であり、「生涯を元気に暮らすことが基本」であるとのご意見から、基本目標の2を「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」として健康福祉分野を掲げております。

また、日々の安全・安心を求めめるご意見や環境保全の重要性の声を強くいただいたことから、「自然環境と暮らしが調和した、安全・安

座長	<p>心なまち」を3番目に位置づけております。</p> <p>さらに、「岡谷市伝統の生涯学習をさらに推進すべき」との意見や「未来の岡谷市を担う子どもたちを地域で見守ろう」とのご意見から、「生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち」を掲げております。</p> <p>最後に、「これからの時代は都市景観にも配慮する必要がある」とのご意見もいただき、「快適に生活できる、都市機能の充実したまち」を、ひとつの基本目標としております。</p> <p>このように、市民の皆様の声をもとめる形で5つの基本目標を設けたものでございます。</p> <p>以上、簡単ではございますが、序論と基本構想の第1章について基本的な考え方を説明させていただきました。</p> <p>委員の皆様方には、現在の第3次総合計画もご覧をいただきましたが、将来都市像や人口の考え方、計画の構成や内容も大きく異なった新しい計画案となっております。</p> <p>地方自治がさまざまな面で厳しさを増すなかにもありましても、夢のあるまちづくりを進めるための総合計画として策定をまいりましたので、よろしくご審議をお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。この後審議にはいりますが、今の段階で何か聞いておきたいことはありますか。</p> <p>それでは部会に分かれての審議に入ります。</p>
----	---

(3) 部会審議 A部会

F委員	<p>これだけの人数なので、気楽にやっていただきたい。和気藹々と活発に意見を出していただきたい。</p> <p>進め方ですが、「将来都市像」、「将来人口」、「土地利用構想」、「まちづくりの基本目標」とそれぞれ10分程度を目安に進めていくということですが、意見のでももの、でないものがあるかと思しますので、調整しながらやっていきたいと思ひます。市民フォーラムの資料が配られました、読んでいただき、次回以降に生かしていただければと思ひます。</p> <p>本日小口光子さんが欠席ですが、事前にご意見を頂戴していますので、小口主幹の方から言っていたきたいと思ひます。</p>
小口主幹	<p>小口光子委員さんから、事前にご意見等をいただいておりますので、発表させていただきます。</p> <p>まず、市民憲章は絶対に見直しすることはできないのでしょうか。というご意見をいただきました。市民憲章の中には、人間の尊重とい</p>

	<p>うところの人間というのは、現在には合わないのではないか。互いを尊重し合うまちをつくりますという言い方でいいのではないか。</p> <p>第2章のP6の(5)の地球規模の環境問題というタイトルになりますが、他のタイトルを見ると、～の進展、～の対応という言い方をしているのに対し、これだけ地球規模の問題という言い方になっているので、“地球規模の環境問題への取り組み”としたらどうですか。というご意見。</p> <p>人口維持が必要な部分は分かりますが、昨年10月から今年7月の間に226人の人口が減っています。この理由を分析してみるのはいかがでしょうか。定住のための宅地造成をしたり、環境を充実させたのになぜかと思えます。というご意見。</p> <p>基本目標4の方に入ります。生涯学習や文化の方に入りますが、他の市町村から見ると、岡谷は特異な文化を持ったまち、よく市民が働くまち、よく言えば合理主義(割り切る)と見えるそうです。特異な文化とは生系に関連した歴史的なこと。これをもっと生かすことに力をいれてみる、それに市民が一人ひとり関わってみたいくなるような会を立ち上げる事、生系に関する思い出話など募集したり、岡谷のまちは、こんなに賑わっていたんだと覚えている人はたくさんいると思います。ということで、思い出話などを募集したらどうですかというご意見でした。</p>
F 委員	<p>【将来都市像】</p> <p>資料10ページの将来都市像に関してはいかがか。</p>
A 委員	<p>安易に変えるべきものではないと思う。</p>
座長	<p>普遍的な目標であるのはわかりますが、それだけにマンネリ化したという印象があると思います。第3次でも掲げてあって、文言とか細かいところを見ていくとどうなのかなというところがありますが、第4次の基本計画の中の基本理念としては良いのではないかと思います。</p>
A 委員	<p>衛生自治会連合会でも市民憲章の唱和を行っているが、マンネリというとなっていると思うが、これという問題はないのではないか。</p>
座長	<p>これは岡谷市の市民憲章ですが、諏訪市の市民憲章といっても市の市民憲章と言っても何も違和感がないわけです。ということはこの中に岡谷市の特徴は何も無いという人が多いのも事実です。</p>
F 委員	<p>将来都市像についてだが、市長の今回の出馬するスローガンがまさにこれでしょうか。どうでしたっけ。</p>
総務部長	<p>前段が違います。後段は同じです。 人 輝き たくましいまちおかや です。</p>

F 委員	いい悪いではなくて、ぱっとみてスローガンと同じような印象を受けた。トップが掲げることが出てくる、そういうものなのかと思った。
総務部長	<p>実は一番最初の人に職員のアナケートをとった。その際に市長公約そのままでも良いのではないかという意見がかなりあった。</p> <p>市長が求めたまちに対する思いがこれからの10年をつくるまちそのものが求めるものと本当に同じでよいのかという議論があって、最終的にたくさんの案がある中でこれにまとまった。いずれにしても、そのまま使うのはやめようということになった。</p>
F 委員	10年間のスローガンがこれということですね。
総務部長	そうですね。
F 委員	3年後に市長が変わったらどうなるのか。前回のに比べるとこれは分かりやすくいいと思うが、ぱっとみたときにこの前期の5年の目標としてはぴったりくるが、市長のスローガンと似ているから10年間を見たときは少し違和感がある。
座長	5年間終わったところで、多少手直しをするときにそこまで及んでもいいのか。
総務部長	厳しいですね。基本計画自体は議決対象ではないが、ここまでは議会で議決対象となる。ただ、社会の変化やその時代にそぐわないという部分のはっきり見えたときというのは、変更になることは勿論ある。こういった部分では変える要素はあるが、一番の基本目標のところが変わるとなると、ちょっとという思いがある。
座長	市長の思いが強く根底にあるということでもいいと私は思う。
L 委員	<p>このところは理念みたいなもの。市民憲章のことが出ていたが、おそらく協議会の方で、例えば推進協議会の中で色々なことを議論されているわけですね。</p> <p>確かに、公害という言葉が果たして皆さんにぴんとくるのかという疑問もある。こういうもので生かしていくとなれば、少し修正しなければいけない時期にきているのではないかと思います。</p>
F 委員	他には何かありますか。
H 委員	私も長く市役所に勤めたことがあり、昇任の試験などで、これを丸覚えした覚えがある。私もLさんがおっしゃったように、公害という言葉は今自然環境というような言葉になっている。言い出せばきりがなく、内容を考えるのか、目安を考えるのかというのは、長い目でみてもいいのではないかと思います。将来都市像の方は、分かりやすく、覚えやすいのでいいと思う。一般市民には覚えやすいというのがいい

A 委員	<p>い。</p> <p>実際に衛生自治会に関係のある者だったが、公害監視員というものがあつたが、これは廃止になつた。公害という言葉自体は考えなくてはならないと思う。</p>
F 委員	<p>市民憲章が基本理念としている以上は、市民憲章を変えるというのは話が変わってきてしまうが、この基本理念という中で、丸々同じものでいける内容にすることもできるのではないか。岡谷市民憲章がまちづくりの基本理念としてとはっきり書かずに、違う言い回しにして、基本理念のところを変えるという方法もあるかと思う。</p>
座長	<p>「市民憲章を基本理念として」ではなく、「市民憲章の精神を基本理念として」にすれば、時代に即さない部分は修正しても良いのではないか。</p>
F 委員	<p>ここで結論を出さなくても、こんな意見が出たという流れでいきたいと思ひます。時間が限られていますので、次に将来人口に進めたいと思ひます。どうでしょうか。</p>
L 委員	<p>【将来人口】</p> <p>5万3千人を維持していく中での年齢構成という問題があると思ひます。おそらく人口動態からすると後期高齢者はどんどん増えていくというのはどの市町村でも同じこと。特に労働生産人口というところに至っては越されていると思ひます。基の人口となる産業振興施策や、子育て支援策、さらに有効的な土地利用などの人口定住対策というところで、主に計画が打ち出されていると思ひますが、もう少し具体的に記載できるようなことであれば、記載した方がいい。例えば、産業振興をベースに人に来てもらい、住みよい環境を作っていくとはいけないというものがあると思ひます。具体的にすることというのは難しいことではあるが、こういったベースがあるということで人口を維持していくことに繋がっていくかと思ひます。</p>
A 委員	<p>今行政の方では、転居での出入りは別として、自然減はどれくらいあるのかわかりますか。</p>
小口主幹	<p>自然減とか社会増ということについては資料がないが、今年の7月1日の人口から平成16年7月1日までの月ごとの人口の資料が手元にある。全体の傾向からみまして、月ごと計算してみましたが、だいたい3月から4月あるいは5月にかけて、20年も19年もこの2ヶ月間で約200人減っている。月々を見れば増もあるが、だいたい20人前後減っている。そうすると年間で400人減っている傾向になる。</p>
座長	<p>減の原因というのは。</p>
小口主幹	<p>正確には分かりませんが、3月から4月にかけての2ヶ月間という</p>

	<p>のは、社会減ということで高校生が市外、県外へ大学進学するあるいは、就職。当然学業を終えて戻ってくる方もいらっしゃいますが、トータルして2ヶ月で200人減っているのではないかと推測されます。</p>
A 委員	<p>赤ちゃんはわかりますか。</p>
総務部長	<p>500弱ですね。</p>
小口主幹	<p>データでもう1つありますが、19年から20年の5月までの外国人登録者数につきましては、微動で若干ではありますが、増えています。</p>
F 委員	<p>外国人というのは、例えば10年前から比べると今はどうですか。</p>
小口主幹	<p>手元にデータとしてありませんが、18年の8月は1005人でした。20年の5月は1028人になっています。</p>
F 委員	<p>この5万3千人、現状維持ということは今の日本の状況でいうと非常に難しいことだし、しかも岡谷がどんどん減っているという、ものすごく大変なことで、その流れに抗って維持するためには、色々な原因を探るということも必要。例えば税収上げということになれば、大きな会社を引っ張ってくるということもあるが、人口5万3千人を維持するというのは1番難しいこと。すべてがここにかかっている。</p>
座長	<p>5万3千人がいいかどうかという議論はあまり意味がないのではないかと。要は具体的にどんな手がうてるかということ。その中身次第。</p>
総務部長	<p>まさしくその議論だと思う。先ほどLさんからお話があったが、単純に人口が5万3千人だと意味がない。それよりもその中身の部分で言うなら、一番基本となる生産年齢人口がいかに維持できるか、あるいは拡大できるかという部分。この年齢3区分の表をご覧くださいますと、現実的には今生産年齢人口はどんどん落ちている状況。特に団塊の世代の皆さんがほぼ退職年齢となると、働かない年代に入ってくる。その1000人くらいの方がそういう状況になってくるのに、生まれてくるお子さんは500人くらい。そうすると、完全にバランスを失い、このまちにとって何ができるかという基本の部分にすべて関わり合ってくる。その部分をいかに施策をうって出られるかということにかかってくる。要するに、そういった部分で言えば、産業振興の施策というのを1番に持ってきた。産業振興がなければ、働く場の確保もない、むしろこの基本があってはじめて、この上にお年寄りもリタイヤする時代ではなく、もっと健康に働ける年齢というの、そこまで持っていくことのできる、そういうまちというのをつくっていくというのが一番の策。子育ての部分ができるというの、子育てをできる世代の人たちが、働ける環境を作ってあげないと子育てもで</p>

座長	<p>きない。そこへいくとやはり、産業振興へいく。複合的にやっていかないとこの人口維持へいかない。笠原さんが言ったように、ものすごく高い目標で、どうやれば実現できるのかという部分では非常に厳しい目標であると思います。この部分が今回の一番のポイントとなるくらい大事なところだと思いながらやっている。</p> <p>人口を維持したり、増やしたりする手段として産業は、1つの大きな武器になることは間違いないと思うが、これ自体が、今の時代の流れからすれば非常に難しいこと。人口が増えている場所というのは必ずしも産業だけで支えられているとは限らない。この近辺では、安曇野市では人口が増えている。ここと安曇野市の自然環境はまったく違うので、同じというわけにはいかないが、都会から移住してくる人が多い。この間の市民フォーラムで、どなたか発言されていたが、医療関係の施設を充実することで、人口が増えているところがあるというお話があった。都会で、ちょっとしたジムなど地域の人たちが気軽に活用できるようなスポーツ施設をつくったまちへ、団地に人が集まり人口が増えたというような話も出ている。確かに産業振興も大きな1つの手段ではあるが、それ以外の施策も必要。</p>
総務部長	おっしゃることはよく分かります。
F 委員	みなさん他にはどうですか。
G 委員	<p>自然にいけば、人口は5万人を切るかもしれないくらいのところをうまく書くには、もう少し別のページのところで具体的なものが載らなくていいのか、掲げてしまってもいいのか。目標としてみんなに希望を繋ぎたいというのは分かるが、書いてしまってもいいのかと思う。あちこち小規模に土地を分譲すれば民間から買うよりも、何か助成がついて安くなるのではないか。住宅の価格の問題で、ここへ勤めているのに、最後は子どもが小学校へ上がるときに出て行ってしまいう友達もいた。4人お子さんがいて、住宅も高いし、4人のある程度の教育を受けさせたいと思うと松本の方に出ないと通学の費用が出せないと言って、越してしまった人もいた。最後はお金のことではないかと思う。マンションは3棟くらい建てられたがそれで人が呼べなかったのかなとか疑問に思う。</p>
F 委員	人が来ても、住民票を取らないという人もいる。
総務部長	世帯分離をして、いただけとなると全体の人口は増えない。
座長	岡谷区のポレスターはどうか。なかなか情報を出してくれない。区内での移住者は来ないが、市内市外の区分けでは不明。
小口主幹	会合などの中では、3分の2くらいが市内で、あるいはここで住宅を建てようかと思った方が、色々考えているという方が3分の2くら

	<p>い。あとの3分の1が市外の方で、中には昔岡谷に住んでいて、リタイヤしてこちらへ戻ってくるという相談もあった。</p>
A 委員	<p>西堀から見てもアパート族というのは増えている。市へ登録されて来ているか分からないが、一部の人では親から離れたということである人もいる。</p>
H 委員	<p>話が離れるが、出生率の低下というのはよく分かる。P 4の最初のところに人口減少の最大の要因が出生率の低下とあるが、子どもができない方もいるので、最大の要因という言葉は、子どもが生めない女性に対してというところでさらっと流してしまえばそれまでだが、いない人にとってはちょっときつい言葉に思う。</p>
F 委員	<p>基本構想というと将来人口ははっきり数字を出すものなのか。</p>
総務部長	<p>わりとどこでも出している。それをベースにした色々な計画がある。それを基本に置いた計画をつくっていくので、1番基本となる部分をつかまえておこうという感覚である。</p>
F 委員	<p>そうすると、それがぶれてくると、どんどん計画に対するぶれが出てくるので、かために見るとするのはよくないのか。</p>
総務部長	<p>前はそれで困ったことがあった。以前は6万3千人と言って6万を割ってしまった。計画だけなら6万3千人と言ってしまふ。例えば下水道の普及率など下水道計画をつくるとなったときに、6万3千人を想定した計画をつくらざるをえない。そのかい離が現実的にこんなふうになってしまった。そういう点では非常に困る。</p>
座長	<p>実際に行政を運用する段階では現実を踏まえて、切り替えるということか。</p>
総務部長	<p>そうですね。それは市長判断です。 それは当然のことである。具体的な部分というのはそれをベースにしていく。市の中にいくつかの大きな計画づくりがあり、人口を基本においたものとしてつくる。</p>
A 委員	<p>市としての必要な人口規模はどれくらいか。例えば人口が3万人以上だと市になれるとか基準があるのか。</p>
総務部長	<p>現実に市のところが何人になっても市は維持できる。新たに市になるというのは人口が必要になる。</p>
F 委員	<p>人口については、ここまでにさせていただき、次の土地利用の構想についてご意見、ご質問があればお願いします。P 13～15が資料になる。</p>

座長	<p>【土地利用の構想】</p> <p>北部・中部・南部という分け方に違和感がある。それぞれに性格が違うからということもあるが、次の目的別土地利用というのがあって、例えば同じ森林保全ゾーンは北部にもあり、南部にもある。目的別とミックスしてうまく表現すれば1つで済むのではないか。</p>
F 委員	<p>私も同感です。私たちにはぴんときない。</p>
小口主幹	<p>これは平成11年度につくりました第2次国土利用計画というものが、その中で地域区分としまして、北部が用途地域という人が住まない地域、現在で言うと上の原小学校や、出早公園より上、北側もそれより南側のJRのトンネルの付近になる旧岡谷地区・長地地区・樋沢地区を入れたのが中部地域、湊・川岸地区が南部地域ということで、説明としてこのように分けた。</p>
F 委員	<p>分けた方がやりやすくなるのか。全体にそういうものがあるということが、我々の意識にはない。ベースとしてはあるということですね。</p>
総務部長	<p>これをここへ持ってきたときに、基本構想の中で、本当にそうなのかという気がする。</p>
F 委員	<p>例えば、アの中で自然環境の保全に努めるとある。イの中には、快適な都市環境の整備を推進しますとか、あるいはウの地域の活性化に向けて都市基盤整備の推進をしますとあるが、どこにでも当てはまること。そうすると中部地域というのは、都市環境の整備をやるが、同じ中部地域でも少し離ればそうじゃない部分はある。分け方でそれぞれに、こういうことを努めるとか目指すと書いてあるので、無理があるように感じる。そうなれば“他の地域ではやらないの？”という疑問にもとれると思う。</p>
L 委員	<p>地域別土地利用と目的別土地利用とそれぞれ関係するところもあると思うので、その辺をうまく一体的にさせていただいた方が分かりやすいように思う。</p>
A 委員	<p>中部のふれあいゾーンとは、やまびこ公園のことを言っていると思うが、南の保全ゾーンは私有地が多いのではないか。私有地とすれば市の方で、ふれあいゾーンとか保全ゾーンとか決められるかどうかというのが、問題ではないか。</p>
小口主幹	<p>おっしゃる通り、北側の森林ふれあいゾーンにつきましてはやまびこ公園であります。岡谷遺跡やCの山の方のエリアが南側のゾーンになる。森林保全ゾーンの方ですが、北につきましても、湊・川岸は保安林指定といいまして、個人あるいは団体を含めて県に指定しますと、個人の山ではありますが、木を切ることに對して制限が設けられ</p>

	<p>るため、そういう意味での森林の保安林と位置づけをされます。特に湊・川岸地区では豪雨災害もあり、これからもなお、保安林指定をしていく方針で県の方も、地元の方も動いているため、このように、森林保全ゾーンとしている。既存の保安林指定をされているところも、森林保全ゾーンというふうになっている。</p>
座長	<p>投資対効果ということをよく見る必要があり、過去の事例をもう一度検討し、次に生かしていくということが必要。岡谷駅南の開発に投入した金額は大変な金額。実際に70億を超えているということで、結果的にはまったく付加価値を生んでいない。そういうところが他にもあるのではと気になっている。</p>
F 委員	<p>【基本目標】 では最後のところになりますが、まちづくりの基本目標5つにいきたいと思います。これは具体的なものになっている。これからこの5つの中で、政策や施策なりが細かく出てくるということです。</p>
総務部長	<p>ここでは、これから進めていただく各章の部分の議論の中でお話を進めていただき、その上でそれらをくくりとして、この基本目標として言葉がふさわしいかどうか、最後のところで、論議をいただくのが、見方としていいかと思う。ここで見てもあまり意味がないかと思うので、できれば今の考え方がこうであることまでを理解しておいていただき、この後の次回以降の総まとめとして、言葉が本当にふさわしいかどうかをみていただいたらどうかと思う。</p>
F 委員	<p>これでだいたい網羅されているということか。</p>
総務部長	<p>この基本目標のほかに、後段に総合計画の推進に向けてというのがある。これが要は、ここからはじき出された部分。なかなかこういった形でまとめにくい部分を、推進に向けてという中で、4つ程はじき出した形になっている。この中に、市民総参加だとか、合併の部分、これからの課題の部分が色々あるが、それをこちらの中でくくるのは難しいということで、はじき出す形となった。</p>
座長	<p>3次はこれを6番と位置づけていますね。</p>
総務部長	<p>そうですね。そのときには、きれいに分けたいということがあり、1～6に埋め込んでしまった。今回は基本目標がしっかり見えるような形にしようということになった。</p>
座長	<p>行財政改革プランというものがあるが、かなり具体的なことが盛り込まれていますよね。行財政改革プランの内容と、第4次総合計画というものはどういう位置づけになるのか。整合性は。</p>
総務部長	<p>なぜ行財政改革プランと言うものをつくっていかねばならな</p>

	<p>いのかというところは、三位一体の改革以来、地方の流れが大きく展開してしまった中で、そういったところにメスをいれていかないと、これからのまちづくりとしてやっていこうとするものの、財源確保からはじまり、そこへ持ち得ないだろうということからはじまったのが、行財政改革プランである。かなり踏み込んだ、幅の広い部分でのまとめをしてあります。10年ということの中での目標だが、3年ごとに見直しをしていくという形。今年がその3年目になり、ここで見直しをしているところ。当然のことながら、ベースの部分としては、それぞれの施策を行政評価につなげ、そののこのところを見直しすることをやってきた上で、更に一歩進めて何をやっていかなければならないかということに持っていつているのが、第4次総合計画と思っている。</p>
座長	<p>行政改革プランの中では、厳しい状況の中で取捨選択をし、我慢すべきは我慢しなければいけないということが指摘されている。すべてやりますという印象を受け違和感を感じる。なんでもやりますではなく、できること、できないことがあるので、我慢してもらいたというよう姿勢が、第4次総合計画にもでてきていいのではないか。</p>
総務部長	<p>行政改革が前面に出てくるというのは、基本構想としてはかなり難しい選択だと思う。先ほど5つを基本目標にし、その他の部分をはじめ出したという話しをしたが、その部分は将来を見据えた行政経営の推進という中で、当然行革ありきで、それがないとやっていけないということはあるが、そうはいつでも基本構想という部分に今言ったような部分をすべて入れるという、あり方としてどうかという議論もありました。これがすべてこの通りきれいにできるとは思っていない。かなり難しい部分も網羅しているのが現実だと思う。こういうものをつくるときに、考え方をどうしていくかは難しい問題だと思う。</p>
座長	<p>実施計画の中で具体的に折り込みをしていくということか。</p>
総務部長	<p>そうですね。この下にもう1つあるのが、当年度予算といって各年度の予算で、ここで言えば来年度予算の審議で、その固まったのが3年ということで実施計画、前期基本計画、基本構想といった組み立てになる。現実的な部分としては当年度の予算で実施計画。今年少し方向を変えていこうということで、実施計画を今までハードの部分しか実施計画に反映していなかったが、来年度からソフトの方も入れた実施計画にしていく予定でいます。おっしゃっている部分はそののこのところかと思いますが。</p>
F委員	<p>これで、終わりになります。何かここだけはというところがあればどうぞ。</p>
G委員	<p>難しい用語の解説がついていますが、解説の用語のところへ飛ぶのが難しい。読んでもらうときの工夫が必要かと思う。</p>

L 委員	他の計画を見ると、コラムのような形で差し込んでいるものもある。そういうものも見やすいのかと思うので、ご検討いただければと思う。
小口主幹	基本計画の方にいきまして、施策の最後の方に用語解説をしてあります。今の基本構想の方にいきますと、最後のページのところにまとめてあるが、そのページごとにあった方がよろしいでしょうか。
L 委員	見やすさは一緒かと思うが、ご検討いただければと思う。
F 委員	この後全体会で報告をしたり、また皆さんからご意見をいただく機会があるそうです。

部会審議 B 部会

K 委員	<p>【将来都市像】</p> <p>4項目あるので1項目10分から15分ほどの間で審議をお願いしたい。意見があれば時間にこだわらず進めるので遠慮せずに発言いただきたい。まず、9ページの将来都市像について審議をお願いしたい。</p>
B 委員	<p>今まで第2次、第3次の計画では、表現が「豊かな自然と調和した国際文化産業都市」、「人と自然が共生する健康文化産業都市」という「都市」という表現であったが、今回は「まち」という表現に全部変わっている。「都市」から「まち」へずいぶんイメージが変わった感じがする。なぜ概念が変わったのか、この意味を聞きたい。</p>
小坂主幹	<p>今までは、ハード的な施設整備や基盤整備などの、まちづくりを進め、都市づくりをしてきた。しかし、これからの10年は、あれもこれも整備できる時代ではない。ハードからソフトへ変化しているのが計画にもでている。その意味もあって、施設のまちではなく、人のつながりや賑わいといったものも含めて「まち」とした。</p>
B 委員	<p>ここらが大きな方向性として大事なことだと思う。都市像のこのことが市民に理解されることが大事だと思う。市民にPRしてほしい。言葉の表現の仕方を考えてほしい。考え方はわかった。</p>
K 委員	<p>「みんなが元気に輝く たくましいまち岡谷」、この言葉で、どの程度市民の方がどれだけ理解されるか。この中にいろいろなものがたく</p>

	さん入っている。活力やいろいろな意味があるが、かと言ってこの言葉以外にはないのではないか。
小坂主幹	このフレーズだけでは具体的なイメージが伝わらない。今説明したようなことを加えないとイメージは伝わらない。
D委員	この言葉は、市長が選挙で使ったものではないか。イメージ的に同じではないか。訂正できないのか。
小坂主幹	公約は「人、輝き たくましいまち岡谷」で、言葉は違っている。言葉にこだわるものではないが、市長の選挙での想いが強く出ている。
J委員	この言葉自体はどうこうないが、いままでと表現が違っていることを、前文に今まで説明されたことを、しっかりと付け加えないと意味合いが伝わらない。将来都市像の三行の上に、今説明のあったようなことを加えてはどうか。ここでは「本市においては、・・・」の段落と「県内有数の・・・」の段落の説明しかないので、そのあとに説明を入れ、この言葉につながる説明が必要ではないか。
C委員	流れとして基本理念の実現が将来都市像となるのか。そういう考えで良いのか。基本理念と将来都市像は別のものなのか。つながっているのか。
小坂主幹	基本理念が一番上にあって、それを実現するものが将来都市像になる。
C委員	理念はやわらかい言葉で、輝くなど堅い言葉でどうか、まあ良いのか。説明の中でわかれば良い。
小坂主幹	計画の表現の仕方、組み立ての仕方など、審議ですので、こういったものを盛り込むとかご意見をあげていただきたい。
B委員	<p>【将来人口】</p> <p>目標人口が5万3千人だが、棒グラフの人口構成は、平成21年の内訳と30年の5万3千人を見たときに、とても不可思議な感じを受ける。人口を増やそうとするときに製造業に携わる人を増やす気持ちが大いと思う。産業振興で人口を増やしたい意図は感じるが、この図を見ると増えていない。高齢者が増えているだけで、生産年齢人口は増えていない。21年度の5万3千人と30年度の5万3千人を比べれば良いので、人口を増やす狙いや生産に携わる人、年少者を増やすニュアンスが読み取れない。見方が間違っているかもしれない。</p>
小坂主幹	同じ棒グラフが並んでいるのでわかりづらいが、右の2つのグラフを比べると、矢印の左側のグラフは、人口が5万人を想定している。

	<p>高齢者の割合が65歳以上で33.7%と高くなるので、それを右側の5万3千人にすることによって、それを少しでも抑えていこうとするもの。5万人から5万3千人に増えるところを、働く人で増やしていこうとしている。</p>
B委員	<p>平成21年度で5万3千人なので、今からでも抑えていかなければいけない。働く人口を増やさないといけない。</p>
C委員	<p>高齢者は自然的に増えていく、高齢化は進んでいくので、増えていくのを抑えようとしているのではないか。</p>
B委員	<p>生産者を増やそうとするならば、5万3千人がおかしい。希望的に5万3千人というだけなら良いが、3千人を確保していくには、相当努力しなければいけない。10年後に急に3千人を増やすわけではないので、極端に言えば今から落ちてはいけません。落ちてから手を打つこともあるだろうが、徐々に増やさなければいけない。上手い説明があれば良いと思う。</p>
企画担当参事	<p>これは構成比を見てもらうためのグラフであり、構成比に主眼をおいて整理している。中の生産年齢人口の比率を少しでも増やしていきたいことを示そうとしている。</p>
D委員	<p>年金がもらえるのは65歳以上か。高齢者を60歳以上にすればどうか。働く人を65歳までにして、66歳以上を高齢者にすれば良い。</p>
C委員	<p>65歳以上が前期高齢者なので仕方ない。実際に働く人間を生産年齢人口とすれば良い。</p>
小坂主幹	<p>考え方とすれば、高齢になっても働き続けられることをめざしている。しかし、高齢者人口や生産年齢人口は、統計的に他と比較することもあり区分を変更するわけにはいかない。</p>
C委員	<p>生産年齢を14歳で分けるのも、現実には18歳以上になっている。18歳でもほとんど働いていない。14歳は建前だけになっている。現実にはほとんど18、20歳にならないと働かない。</p>
J委員	<p>現実問題として、第3次の増える見込みのないままの6万人を、より現実的に近い5万3千人を維持するとしたのは評価するが、現実問題として6万人をめざしてやってきたのに、現実に減っているのに、3千人を増やすことは困難ではないかとなるのではないか。</p>
K委員	<p>大学誘致を見込んで6万人としていたのではないか。</p>
J委員	<p>5万3千人の現実と、こういう数値でいきたいという気持ちはわかるが、現実にそぐわないのではないか。</p>

小坂主幹	3千人なりの減るべきものを増やす具体的な施策はなにかいうことになる。
J委員	計画のなかの大前提になる。
小坂主幹	3千人を上乗せするのが難しいから5万人とする考え方もあるが、子育て支援や産業振興、働く場所を確保することによって、何とか3千人を増やして5万3千人としたい。3千人が大丈夫かという見方による。
J委員	3千人増やすための施策というのが、今までやってきたことの効果がなかった現実がある。3千人を増やすことではなくて、5万人が、より良い暮らしができる目標とするのが良いのではないかと思う。
小坂主幹	前回の6万人はとても大きくみていた。6万人はとても無理と見る見方もあるし、5万3千人でも難しいという見方もある。どれだけの数を見込むかは、さまざまな見方があり、議論の分かれるところで意見をいただきたい。市では、3千人は何とかできるのではないかと考えている。今、どんな施策をうってどれだけ増えるかの、3千人の内訳まで出しているわけではない。
C副会長	実現可能な線で行くのか、努力する目標とするのか、努力する計画の方が良いのでは。結果として10年後に実現できなくても、5万人残った人間が幸せならというのは、計画としては後ろ向きではないか。
E委員	5万3千人とすると、それをもとに税収の目標にもするのか、この人口を基本にして計画をたてるのか。前向きな目標の方が良いことはわかっているが、具体的な数字はどうなっているのか。あくまで人口だけについて5万3千人とするだけで、税収とは関係ないものなのか。
小坂主幹	今、具体的に5万3千人を想定した税収額を積算しているわけではないが、働く人を増やして、税収を増やしていこうという考えがある。
C委員	市の方針の一番上にあるものだから、総合計画はすべての基になるものではないか。これを基本として、税収も5万3千人をもとに算出する。少なめに0.9をかけたことはあるだろうが、総合計画では5万3千人を目標としながら、税収では5万人で積算するようなことはない。
小坂主幹	市税にもいろいろなものがある。人にかかるものもあれば、法人税など企業にお願いするものもある。
D委員	会社でもそうだが、目標は手の届くようなものではないけない。社員

	<p>に努力をお願いします。すぐできるようなものではない。今回の目標もすぐ届くようなものだと目標にならない。ある程度税収も考えて計算されたものと思う。手の届かないような目標を立てることも必要ではないか。</p>
小坂主幹	<p>その度合いが難しい。市民フォーラムでも、目標なのだからもっと大きな数字でも良いという意見もいただいている。6万人をめざすべきだとの意見もあるし、6万人はとても現実的でないという見方もある。6万人でも大丈夫だという人もいる。ひとによってさまざまな考え方があり。そのなかで、市は5万3千人なら何とか現実に達成できると考えた。そのニュアンスが違う。</p>
B委員	<p>その意味でも、この文章だけでは、何とか人口を増やそうとすること、維持していこうとすることが読み取れない。希望的観測で5万3千人ならかっこ良いとしか見えない。</p>
K委員	<p>時間もあるので、これからの課題として次にいきたい。</p>
C委員	<p>【土地利用の構想】 15ページの図で、市街地と農振農用地域が白黒では色がわかりづらい。</p>
小坂主幹	<p>農振農用地域は、指定を受けて規制が厳しくかかる地域で、樋沢地区、半ノ木地区、栃久保地区の3地区が農業振興地域で土地利用に規制がかかっている。それ以外の薄い色がかかっている旧市内、川岸、湊地区が市街地地区となっている。農振地域は、農業振興のためにさまざまな規制がかかってくる。</p>
B委員	<p>その意味で、森林、親水などのゾーンはあるが、農地のゾーンはない。それ以外に農地に関する記述がない。農業に関わる人には、俺たちは相手にされていないという思いがありはしないか。</p>
小坂主幹	<p>農振地域は、指定を受けている意味から農業を守る意味がある。それ以外の部分か。</p>
B委員	<p>それも含めて、それ以外には農業の記述がない</p>
K委員	<p>農業に携わる人はどのくらいいるのか。</p>
小坂主幹	<p>農林漁業で600人ほどいる。</p>
C委員	<p>18人の漁業のために、漁業を振興するのかということになる。</p>
小坂主幹	<p>農業を守るとは逆な見方になるが、13ページに「企業立地を推進するため」の文面が付け加えられている。庁内でも議論をして、農業</p>

	<p>を守る立場とは逆だが、岡谷だから工業振興のために、あいまいな言い方が土地利用を進めようという意味も含まれているのが、ひとつの特徴でもある。今のご意見とは反対の意図になる。</p>
B 委員	<p>工業のために農地をなくすように聞こえるが。</p>
小坂主幹	<p>直接そう表現はしていないが、そういう意味も含まれる。</p>
C 委員	<p>農業も専業だけではない。</p>
小坂主幹	<p>兼業農家も含まれている。</p>
J 委員	<p>産業振興の意図があって、今回土地利用構想を総合計画に含めたのか。</p>
小坂主幹	<p>工業振興のために「土地利用の構想」を、総合計画に位置づけたのではない。今までも土地利用構想は「国土利用計画」というなかで同じように示していたが、位置づけとして今回総合計画に合わせることにした。</p>
C 委員	<p>そうは言っても、中部地区の説明の中に農業用地についての記述がある。農業を大切にするのか、どちらなのか。</p>
小坂主幹	<p>優良農地を確保するためにも、耕地整理など集中して行う必要がある。</p>
C 委員	<p>農業用地をゾーンにまでする考え方はもっていないということ。</p>
小坂主幹	<p>耕地整理した地区、開拓した地域など、ゾーンというまではいかない。それぞれの経過があって農業振興地域に指定されている。</p>
B 委員	<p>【まちづくりの基本目標】 市民総参加のまちづくりなどの4つが「計画の推進に向けて」で後に出てくる。それぞれに指標をもっている。なぜ、基本目標6において、市民総参加としなかったのか、政策と施策につながっているとわかりやすい。3総では、そうになっていたが、それをわざわざ切って、なぜ基本目標としなかったのか。</p>
小坂主幹	<p>3総では6番目の項目にあったが、今回は、それぞれの目標に共通的に関わっていく位置づけにしてある。産業振興も市民総参加で、福祉も教育でも市民総参加でやっていこうとするもの。</p>
B 委員	<p>最終的に指標まで持っているのは、政策ではないか。考え方は良くわかるが、具体的に、こうしていくというのは、フォローしていきなごわかりやすい。すっきりしない。</p>

小坂主幹	<p>総合計画で指標をつくっているのは、行政評価との連動がある。政策評価し、計画の進捗を管理するために指標設定でもある。確かに、同じような仕組みで基本目標と同じように指標を設けてあるのでわかりづらいところがある。</p>
B 委員	<p>基本目標と分けても、最後に目標指標がでてくるとわかりづらい。</p>
企画担当参事	<p>3 総では、6 つめの目標になっていたが、全部に関わらなくてはいけない。行政でいうと縦割りが残ってしまう。各分野で市民参加がされたのか、開かれた市政なのか、行政が音頭をとる時代ではなくなっている、全部にかけておかなくてはいけないと考えた。市民の皆さんから見たときに、すべての分野に及ばなければいけない。これをやるためには、この施策をしなくてはいけないものを示した。ただ掲げるだけではいけないので、市民の方にわかるように指標を掲げてある。</p>
B 委員	<p>意図はわかる。</p>
J 委員	<p>今の部分にも関わるが、前回の終わりに前期重点プロジェクトも全体に関わると言われたが、わかったようなわからないような感じがする。</p> <p>系列が上手くできていないのではないかと。基本目標があって、政策があり施策があるが、重きをおいているものが、先に来て、その下から基本目標がでてくるのではないかと。なおかつ重点プロジェクトがあるという説明でないとわからない。客観的に見たときに、そういう説明がないとわからないのではないかと。</p>
C 委員	<p>目標を達成するために政策を実行するとき、この4つの視点を忘れるなというもの。項目を考えると、政策を立てるときの、まわりを見る目をこういう目で見ろという意味ではないかと。自分だけの専門性で見るなよという意味では。</p>
B 委員	<p>だからこそ構成的に前にこないと変な感じがする。</p>
C 委員	<p>目標ではないのか。進め方ではないか。</p>
B 委員	<p>目標として指標がでている。</p>
J 委員	<p>推進に向けてだから良くわかる。</p>
小坂主幹	<p>同じ資料をみても、組み立てや体系の捉え方がバラバラになってしまう。同じ認識をもってもらえるような説明が必要かもしれない。</p>
E 委員	<p>これが基礎にあって、これを上にもっていくのはどうか。</p>
小坂主幹	<p>18、19ページを縦に見るのが、わかりやすい表現の仕方かもし</p>

	れない。これにこだわるわけではなので、わかりやすい計画づくりを進めてきたので、将来都市像もそうだが、ご意見をいただきたい。
B 委員	市民総参加のまちづくりが全てに関わるのは当たり前のこと。市民総参加のために何をするかが、ひとつの施策だと思ひ、立派な目標になると思ひ。全体に関わる、その通りだと思ひが、ぼけてしまひ。
小坂主幹	まさに審議の議論なので、このあとの全体会議にも、6番目の目標としてはどうかとの部会の意見を報告して議論したい。
企画担当参事	市民がめざすのが5つのまちの基本目標であり、その時には、こういうものが加わっていないといけない。目標とするまちもまだ完成していない。
B 委員	具体的に実際にやってこそ、政策である。単なる位置づけではなく、しっかり取り組んでもらいたい。 前期プロジェクトというのは、チームをつくる意味なのか。いろいろなチームができるのか。プロジェクトという言葉の意味がわからない。
小坂主幹	組織をつくるわけではない。具体的に重点的に取り組むべき項目を意味する。
B 委員	プロジェクトチームができることなのか。単なる項目なのか。
小坂主幹	小坂 具体的な事業は、予算のなかで示していくことになる。チームをつくるわけではない。
B 委員	産業振興の施策は、基本目標の1に書いてあるのではないか。
小坂主幹	たくましい産業の創造は、基本目標1に限ることではない、産業振興のための子育て支援策もあるだろうし、教育分野のものづくり教育もある。5つの基本目標に横断的に力をいれる2項目である。
B 委員	ポイントを絞ってやっていこうというもので、忘れずに取り組んでいこうというのか。
K 委員	計画ができれば、全市民に配布するのか。
小坂主幹	概要版の配付は考えているが、冊子を全部に配ることは考えていない。必要な人に必要な部分を出してもらひ。計画をつくるのが目的ではなくて、計画をいかに進めることが大切だと考えている。
K 委員	計画が議会で認められたとして、予算との関係はどうなるのか。計画が認められても、予算がないからと削られるようなことがあるの

	か。
小坂主幹	具体的な事業や予算は実施計画の3年間のなかで示すことになる。毎年毎年作り直していく。財政が厳しくなれば、予算や事業が縮小されるかもしれないし、逆に産業振興で税収が伸びれば、さまざまなことができるようになるかもしれない。
C委員	基本構想を頂点とするピラミッドのイメージはわかりづらい。三角形がいくつもあるイメージで、底辺が増えてはいけないのではないか。基本構想が重要なのはわかるが、面積的に少ないので、重要さがわからない。
小坂主幹	皆さんに資料でお配りした広報の特集記事では、ピラミッドを逆にしたイメージにしてある。基本構想は樹木の根や幹として、基本計画で枝分かれし、政策や施策が体系化していく、その先に実施計画で具体的な事業が花開き、実をつけるイメージを示している。市民の方にわかりやすい表現にしている。
B委員 小坂主幹	この図では、基本目標はどこに位置するのか。 5つの基本目標は、幹から5本の枝が分かれる部分になる。
B委員	図の中に基本目標を示すと、わかりやすくないか。基本目標を示すことが大事ではないか。 NPOの用語解説が何箇所かあるが、つづりがおかしい。 誤 organization 正 organization
小坂主幹	確認して修正する。
K委員	時間も過ぎているが、全体を通してどうか。特になければ部会を終了したい。

5. 全体会議

A部会報告 F委員	将来都市像の中で基本理念が市民憲章をもとにしようということになっているが、市民憲章は昭和46年制定されて40数年たっているので、そのまま持ってくると言い回しとか文言に違和感があるということで市民憲章の基本理念の考え方とか精神という形で計画の中では文章を変えるとか公害という言葉を変えるのはいかがなものかという意見が出た。あるいは、前回、前々回より良いと思うという意見がでた。それと、将来都市像の「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」についてB班からも意見が出たようだが、果たしてこれが10年を見た中でまちづくりをこの言葉で表して本当にいいのかと
--------------	---

B 部会報告
K 委員

という意見が出た。途中で変えられるのか、変えてもいいのではという意見も出た。

将来人口はB班と同じように5万3千人という数字が出ていて、果たしてこの5万3千を本当に維持できるのかと。この裏づけになっているのが、5万3千人を維持するためには、産業振興施策や、子育て支援や、有効な土地利用ということですが、果たして本当に5万3千人を維持することに有効なのか、それだけでいいのか、あるいはこの計画の中でそれを達成できるような計画がつかれるのかという意見が出ました。5万でも良いのではないかと。そういう話も出た。他市、例えば安曇野もそうだが、岡谷なら産業振興になるかもしれないが、他の市の事例も見らる中で必ずしも、この主な3つだけでなくも良いのではないかと、違う見方をしても良いのではという意見も出た。

土地利用だが、北部、中部、南部と分けてあって、これについてみなさんが、こんなわけ方をするんだねとちょっとピントこないなんて話があった。土地利用に対しては投資対効果をもっと検証して無駄遣いとか生きてないお金が使われているのではという話が出た。

最後にまちづくりの基本目標だが、ここに5つ基本目標が出ているが、この細かい文言については、実際に計画を見ていく中で最終的にこの言い方でどうなんだという意見が出た。そして、この5つで全てが網羅されてるのか、例えば行革のところとかは違うくくりでこの計画の中に入っているということで理解をしてほしいという話があった。そして、この第4次総合計画が住民満足のためにこれもあれもやっていくということだが、実際にはこの厳しい財政の中で何でもかんでもやるということではないのかなという意見があった。

その他の部分で、見易さの部分で用語解説が探しにくいという意見があったので、つくり方を見直し手いだけないかという話があった。

B部会も、とても活発な意見が出された。将来都市像だが、以前の計画では「都市」という言葉を使っていたが、今回は「まち」になっているという意見があり、ソフト面を打ち出しているとの説明があった。まちの方がわかりやすいとの意見があった。

人口では、前回6万人としていたものが、今回5万3千人で良いのか、5万人で良いのか、将来に前向きに考えを持っていったほうが良いのではないかととの意見があった。

土地の利用法では、農業に携わる人は少ないかもしれないが、この文章からは読み取れないとの意見があった。

基本目標では、前回市民総参加が6番目の項目になっていたが、今回はなくなっているとの意見があった。

市側からは全部に関わることなので、基本目標にしなかったとの説明があったが、これは目標、指標ではないかととの意見があった。

それから18ページの図がわかりづらいとの意見があった。縦横の向きを変えたほうがわかりやすいという意見があった。

次に3ページのピラミッドの図に、基本目標を書いたほうが良いとの意見があった。

座長	活発に意見交換された内容を短時間で説明してもらったので、わからない点もあると思う。お互いの内容について、ご意見があれば出してほしい。
座長	ピラミッドのなかに目標を入れるというのは、目標項目を入れるのか、考え方を入れるのか。
B 委員	5 項目の基本目標という言葉を入れる。一目でわかるように、基本目標の位置づけを入れる。
K 委員	「都市」から「まち」の説明をお願いします。
B 委員	なぜ、「都市」から「まち」に変わったのか、イメージがずいぶん違う。説明を受けたが、ハードの整備からソフトの充実を図っていく、イメージを変えたとのことなので、それなら説明をどこかに述べた方が良くないかと提案した。
座長	市長の議会答弁でもハードからソフトへと強調している。それを組み入れたらどうか。
F 委員	総合計画の推進に向けてをなぜ基本目標 6 にしないのか。A 班では中田部長が説明したが、B 班ではどのような説明があったのか。中田部長の説明と同じだったのか。
小坂主幹	B 班では、市民総参加などは、それぞれの目標に関わっていくものという説明をしたが、委員の皆さんからは、市民総参加にしても広域連携にしてもひとつの政策だから、6 番目とした方が良いとの意見があった。
B 委員	今のことは重要なことだと思う。
総務部長	ひとつの目標としてくくるのが難しい。4 項目をその他とするわけにもいかない。むしろ、この部分をどうしても進めていくためのもので、B 班と表現は違うかもしれないが、思いは同じである。貴重なご意見をいただいたので、検討したい。
F 委員	18・19 ページだとわかりづらいが、181 ページはわかりやすい。
B 委員	市民総参加のまちづくりは個別に施策をもってやっている。意識して実行してやっている。全部に関わっているだけではない。ひとつの指標として打ち出していった方が良いと思う。いろいろやってきて最後に推進とでるのが、違和感がある。わかりにくいので、配慮してもらいたい。いけないわけではない。

座長	<p>検討していただきたい。</p> <p>前回の市民フォーラムで、2つの前期重点プロジェクトの表現方法について意見があった。何か別の表現の工夫をしたほうが良いと思う。</p>
小坂主幹	<p>B班でも、プロジェクトというものの自体の位置づけがわからないという意見があった。実施計画の予算のなかで、具体的なものを示していくと説明させていただいたが、前期基本計画のなかではわかりづらい。</p>
総務部長	<p>説明不足という感じがある。何の説明もない。</p>
F委員	<p>この2つを前期重点プロジェクトに置くことはどうか。私は良いと思うが、大事なことだと思う。環境という人もいる。</p>
座長	<p>ここにポイントを置くのは良いが、表現の仕方で、違和感がある。</p>
B委員	<p>今回の総合計画と行財政改革プランは、両輪でいくとしているのか、この総合計画の中に入ってきている考えでいくのか、行財政改革プランがどういう位置づけで入っているのか。お金に関するところが、推進のなかに少しあるだけでほとんど述べていない。どんな位置づけなのか。</p>
総務部長	<p>今ご指摘のように、計画の推進の部分でのくくりとして行政経営として行財政改革プランの言葉の部分が載っている。基本的にベースだと思っている。行財政改革プランがなければ総合計画でもこれが第一のベースとしてある。記載上でもう少しこうあった方が良いということはあるかも知れないが、基本・ベースだと考えている。</p> <p>総合計画の推進に向けての位置づけと同じように見えるが、それがなかったら、総合計画にもものらないと思う。</p>
J委員	<p>今日一回やってみて非常に不安になった。大丈夫かなと思った。</p> <p>部会に分かれての意見に個別に答えていただいているので、部会でやって、全体会議でさらに議論されているが、同じ答えなのか不安な面がある。ボードに書かれた内容も大分省略されているので、議事録に反映されてくるのか、意見に対する説明があるのか不安に感じるが大丈夫か。</p>
小坂主幹	<p>議事録は、第1回で確認いただいたように、細かく記録をつくり委員の皆さんに確認してもらう。基本的に公開ということで、ホームページにも出していくが、心配なのは皆さんの意見がまとまっていくが時間的にも心配ではある。</p>
J委員	<p>次からが1週間に一度の会議になるので、時間の流れも変わってく</p>

	るので間に合うかと言う感じがする。
座長	事務的には難しいことではないのではないかと。
J 委員	事務的に大丈夫なら良いが、自分たちの確認も含めて1週間のうちにできるのなら良い。
小坂主幹	意見を集約してひとつの結論を出すところまでは、中途段階では難しいが、1回1回の内容を確認してもらうことは、次の会議前には、前回の記録を見てもらえるようにする。
J 委員	1回1回の記録について、次回まで確認できるのであれば良い。
座長	事務方に頑張ってもらっていて、議事録のなかで確認してもらうという事で良いか。
座長	この総合計画は自治省の指導で作っているが、どこの市町村でも同じようなボリュームでつくっているのか。
小坂主幹	ページ数からいえば薄いところもある。200ページほどになっているが、この半分くらいのももある。薄いなりに中身がどうなっているのかまで見ていないが、内容の項目は、どこも同じもので基本目標や将来都市像、人口目標などがある。
座長	これだけ動きの激しい時代なので、できるだけエキスにして、実施計画などで具体的なものを示していく方がベターではないか。
小坂主幹	わかりやすい計画にする意味では、ボリュームを少なくする考えはもっていた。しかし庁内で担当職員が作るなかで、丁寧にするために厚くなったこともある。
C 委員	ボリュームがあるがために、読んでもらえないこともある。
F 委員	B班では、5万3千人とあるが、雰囲気はどうだったのか。これで良いと思われていたのか、変えたほうが良いと思っていたのか。
B 委員	人口については、5万人との意見も出たが、概ね5万3千人を掲げることで良いとの意見が多かった。 人口構成の図で、平成21年度と30年度の人口が年寄りが増えていくだけにしか見えない。理解しがたい。働く人の人口を増やそうとするのが読み取れない。現実的に5万人との考えもあるが、目標としては5万3千人で良いと思う。両方のニュアンスがあった。
K 委員	下のグラフがわかりづらいとの意見があったが、これしか表現の仕方ができないのではないかと意見もあった。

F 委員	<p>A班でも、このままでいくと5万人だと。5万人の方が現実的ではないか。計画だから5万3千人であるべきだとか、生産年齢人口を増やすような施策をとっていくべきだとの意見もでた。事務局市側では、どんな感触をもっているのか。5万3千でいくのか、将来もんで5万人もありかなと思っているのか。</p>
小坂主幹	<p>庁内でも同じ議論をしてきた。本当に適正な人口はいくつか、目標は目標として高く設定すべきだとの考えもある。言い方とすればいろいろある。流出に歯止めをかけて人口を維持する言い方もあるし、減少した人口を3千人増やすという言い方もある。スタート時の人口規模、まちの規模、同じ人口を維持していくことを、目標として5万3千人とした。何がなんでもこれにこだわるものではない。</p>
F 委員	<p>グラフのカーブを見れば5万人になるのは仕方ないようにしか見えない。それをこうした施策で、できるかもしれないというものが、この計画になければいけない。こうすれば5万3千人になるという計画が、ちゃんと出来ていれば良いが、それが出来ていないと絵に描いたもちにとられてしまう。大事な大きな数字の目標なので、ひとつの説得力があることが必要。</p>
小坂主幹	<p>産業振興によって人口を増やす、子育て環境を整備することによって人口を増やすというような、そういうことがわかるような説明が必要ではないかとの意見もあった。</p>
座長	<p>5万3千人は厳しい内容だというのは、共通の認識だが目標としては5万3千人という数字にするということによろしいでしょうか。 多くの意見がでていますが、市の方で出来る範囲で検討をいただきたい。結論が出ていないが、審議会の性格として止むを得ないと思うので、第1回目はここで締めさせていただきたい。</p>
小坂主幹	<p>次回の部会分けは、皆さんの意向により6名と7名に分かれたので、皆さんの希望どおりの部会でお願いしたい。 属さない部会の方は、用紙を配るので事前にファックスなどで提出いただきたい。部会に報告し議論を深めたい。 次回の開催通知を置かせていただいた。次回の基本目標2のなかの「子育て支援」の部分は、教育の青少年の健全育成と関連があるので、基本目標4と合わせて審議をお願いしたい。次回の基本目標2では、「子育て支援」の部分を除いてお願いしたい。 続いて、会議録の確認をお願いしたい。郵便で案内するので確認してほしい。</p>
座長	<p>次回の部会長をお願いする人はどうするか。</p>
小坂主幹	<p>内容を見ながら、個別にお願いしたい。</p>

B 委員	委員が部会長をすると発言できなくなる。市側で座長をできないか。
総務部長	誘導するようなことがなければ良いが、委員の皆さんがよろしければ。
座長	それをお願いしたい。 ほかに何かありますか。なければ、これで本日の審議会を終了とします。ご苦労さまでした。

6 . 閉 会